



脊髄を損傷し、下半身不随になってしまった高校生“あきら”。 深い絶望の中で、あきらに差し込んだ『光』とは――。

あらすじ

とある高校に通うバスケット部員の**あきら**は、次の大会に向け練習に明け暮れる毎日を送っていた。ところがある日、大型トラックとの交通事故に遭い、脊髄を損傷し下半身不随となってしまう。

もうバスケができない、自分の足で立つこともできない…。あきは深い絶望の中で、周りを拒絶し、悩み苦しむ。

そんな中、あきは谷口さんに、車椅子バスケの練習場へ誘われ、そこでパラリンピックに向けて練習に励む**神保さん**に出会い、強い衝撃を受ける。

「障害があるとか、無いとか、関係ないんだ。

自分の中に目標があれば、そんなハードルいつだって乗り越えられる、イキイキと生きていける！やりたい事があれば、立ち止まってなんかいられないんだ！」



上演にあたって

平成24年度より、劇団すわらじ・青少年劇場は、『Stand up ～あきらめない君へ～』を上演させて頂いております。

この作品は、私達がシドニーパラリンピックで日本代表として活躍された**神保康広さん**に出会い、その前向きな生き方に感動して、劇化を思い立ったものです。

現代の私達は日々の生活の中で、辛い時、苦しい時、「どうして自分だけ？」と感じる事が多いのではないのでしょうか。そんな時ふと周りを見渡すと、世の中には自分より深い絶望に直面しながら、それを乗り越えて頑張っている人がいる事に気付かされます。

この作品をご覧頂き、「自分だけが」という考えから、新しい価値観に出会うきっかけになる事を願って、この作品をお贈りしたいと思います。

● 主な登場人物



あきら

バスケットに熱中する高校生。大型トラックとの事故に遭い、下半身不随になってしまい、絶望する。



けい

あきらの幼馴染。あきらの事故後ある葛藤に苛まれるが、その後あきらを支える。



谷口さん

あきらの高校へ課外授業の講師として訪れた身障者。



神保さん

車椅子バスケの代表候補。パラリンピックの代表選出に向けて練習に励んでいる。



あきらの母

下半身不随になったショックで荒れるあきらに、自らも思い悩む。



村田先生

あきらの担当医。落ち込むあきらに自分のある過去を話し、助言をする。



すわらい劇園と神保康広さんとの出会い

神保康広さんはダスキンの公益財団法人「ダスキン 愛の輪基金」の障がい者リーダー育成海外派遣事業の第19期研修派遣生として、海外で障がい者福祉について学びました。

すわらい劇園は、この「愛の輪基金」をPRする為の「愛の輪の集い」（現ダスキン感謝の集い）の第二部でお芝居をさせて頂いております。集いの第一部に「愛の輪」のPR活動として、研修派遣生の体験報告の時間が設けられています。

神保さんも発表者として何度も講演をされました。

最初のうちは挨拶を交わす程度でしたが、神保さんの人柄もあり何度もお会いするうち、親しくお話しさせていただくようになりました。このお芝居に使用する競技用の車椅子は、神保さんが実際に使用されていたものです。

現在はお忙しい事もあり、発表者として舞台に立たれることはありませんが、神保さんとは今も親しくお付き合いをさせて頂いております。



上演に寄せて ~神保康広~

僕は16歳の時にオートバイの事故で車椅子生活になりました。当時は家に閉じこもってしまうほど落ち込みました。何も出来ないと思って人生のどん底を味わった後に、車椅子バスケットと出会いました。

障がいを持っていても出来る事がある！

それを知って以来、僕の人生は大きく変わっていきました。

パラリンピック出場にアメリカ留学。そして発展途上国でのボランティア活動の経験も…。色々出来ない理由を見つけて諦める事は簡単かもしれませんが、出来る事の方が多いと思います。

僕はその為に、自分の思いを貫く事、自ら行動することを覚えました。



3日坊主でもいいんじゃない？

何もせずに諦めるより、何か興味のある事に向かって、まずは**行動**してみませんか？

今回上演されるすわらい劇園さんのお芝居に期待しています！

人は絶望の淵に

立たされた時

その人の真価が

問われる・・・

Stand up

~あきらめない君へ~

1幕

